

	方剂名	効能	生薬組成
	書籍	主治および証	病機 方意
補益剤 補陰剤 19			
	<p>だいていふうしゅ 大定風珠</p>	<p>滋陰養血・潜陽熄風</p>	<p>生白芍 18g・阿膠 9g・生龜板 12g・生地黄 18g・麻子仁 6g・五味子 6g・生牡蠣 12g・麦門冬 18g・炙甘草 12g・鷄子黄 2枚・生龍甲 12g <三甲復脈湯 + (鷄子黄・五味子)>に相当する。 水煎し滓を除き、鷄子黄を入れて攪拌し、温服する。</p>
	<p>温病条弁</p>	<p><主治> 真陰大虧、虚風内動 るい瘦、皮膚の乾燥、両頰部の紅潮、もうろう状態、手足の筋肉蠕動、甚だしいとけいれん、舌質が紅絳、少苔～無苔、脈が細促あるいは細で微弱などを呈す。</p> <p><病機> 温病で熱邪が長期間停留して真陰を灼傷し、誤って発汗、瀉下などが加えられて陰液がさらに消耗し、真陰が大虧して虚陽が上浮すると共に、肝不養筋による虚風内動が生じた状態である。 陰液が消耗して羸瘦、皮膚の乾燥がみられ、真陰が虧損し陽気が依附するところがなくなって上浮するので、両頰部の紅潮が生じる。心陰、心気が養われないので動悸し、心神が養われないためにもうろう状態を呈する。真陰大虧で肝の陰血が不足し、筋を養えないので筋脈が拘急し、軽度なら手足蠕動（びくびくひきつり動く）が、甚だしいとけいれんが生じ、これを「虚風内動」と呼ぶ。舌質が紅絳、少苔～無苔、脈が細は陰虚をあらわし、脈促（数で不整）は陰血不足の虚熱と血液乾固による流行澁滯を示す。脈が細で微弱は、陰虧で陽気も亡失しそうな危候をあらわす。</p> <p><方意> 滋陰養血を主体にし潜陽熄風を加える。 血肉有情の阿膠・龜板・龍甲・鷄子黄で真陰を填補し、白芍・生地黄・麦門冬で滋陰養血増液し、酸斂の五味子で斂陰し、五味子・白芍・炙甘草で酸甘化陰し、陰液を強力に滋補する。牡蠣・龍甲・龜板は潜陽熄風に働き、鷄子黄は心腎を滋補して交通させる。白芍・阿膠・生地黄・麦門冬は、滋陰柔肝に働いて、虚風を内熄し虚陽上浮を鎮潜する。五味子は斂陰留陽して陽気が散亡し虚脱するのを防止する。潤腸の麻子仁は、滋陰潤燥の補助薬である。</p> <p><参考> 本方（大定風珠）は邪気が盛んなときに用いてはならず、熱盛の場合には清熱熄風の剤を用いるべきである。 本方（大定風珠）は加減復脈湯（炙甘草・生地黄・生白芍・麦門冬・麻子仁）の加味方である。 加減復脈湯より麻子仁を除き、牡蠣を加え、「ただ大便溏す」に用いる一甲復脈湯を除き、二甲および三甲復脈湯、および本方（大定風珠）が滋陰熄風の方剂であり、いずれも（温病条弁）にみられる。 本方（大定風珠）は亡陰、虚風内動の重症に用いる。 本方（大定風珠）は三甲復脈湯に鷄子黄・五味子を加えたものに相当し、虚風内動の重症であるから、酸斂の五味子で斂陰潜陽し虚脱を防ぎ、滋補心腎、熄風の鷄子黄で心腎を交通させ滋陰熄風の効能を強めている。</p> <p>加減方 呼吸困難を伴うときは肺気が絶える前兆であるから、人参を加え益気固本する。 自汗があるときは固表できないことで陰陽両脱の恐れがあるので、竜骨・人参・小麦を加え斂汗固脱する。 動悸があるときは心の気陰大傷であるから、人参・茯神・小麦を加え養心安神する。 本方（大定風珠）に人参を加えると、生脈散（人参・麦門冬・五味子）を配合したことになり、大定風珠合生脈散で滋陰養血、潜陽熄風、益気生津、斂陰固脱の効能をもち、陰陽両脱の危急状態に有効である。</p>	